

照葉樹林保全をはじめとした綾町の歴史的背景と里山づくり

=「綾町イオンの森」里山の再生を目指して=



宮崎平野の南西部の山裾に位置し、交通の袋小路的環境。

綾町イオンの森



綾町

綾町

- ・面積:、総面積:9519ha
- ・人口:6518人(2025年1月1日現在)
- ・住居は殆どが半径約2km内に集中
- ・面積の約80%は森林、その凡そ80%は国有・県有・町有林

- ・鉄道・国道・高速道路・港湾・空港なし(地形的地理的袋小路的环境)
- ・幼稚園1・保育園3・小学校1・中学校1・高校以上なし
- ・内科及び外科・小児科3、歯科2
- ・博物館・ビジターセンター・資料館・郷土館等無し
- ・耕地は約739ha(7.8%)、森林以外その他1210ha(12.7%)

1 綾の歴史的里山づくりとの出会い、

2 そしてBR的里山づくりとの連携

2

2025

現在イオン環境財団と綾町とで * 新たな価値の創造を目指す計画予定
* 綾らしい新たな社会生態学的生産ランドスケープの創造

2024

綾町イオンの森と割付日向夏畑が自然共生サイトに認定

2023

東洋紡績綾の森が自然共生サイトに認定

2015綾町生物多様性地域戦略

2017

1 イオン環境財団と日本BRネットワークとの連携で綾BRが森づくりに参画

綾町森林整備計画

2013

綾町とイオン環境財団が「宮崎県緑化推進機構」を介して「運命的？出会い」

2012

綾中学校木造立替

日本では自治体初の申請でBR登録

2005

100年かけた綾の照葉樹林プロジェクト開始

2001

「有機」AS認定機関の認定

1988

自然生態系農業の推進に関する条例施行

1985

照葉樹林文化を考える取組(照葉樹林都市宣言他)

1978

循環型地域社会の構築

1984森林伐採反対運動

1975

綾町の自然を守る条例制定

1973

健康野菜づくり、一坪菜園運動(有機農業の先駆け)、「ひむか邑結成」

1967

全町挙げての森林伐採反対運動

1965

自治公民館制度発足・消費社会を批判的思考する「ひむか邑」運動

1945

地域互助組織を提案することになる民主青年団結成

歴史的循環と共生の里山づくり

BR的里山づくり

MAB計画のBR的世界と連携した里山づくり

新たな里山づくりの展開に期待

農家とJA綾町等参画

企業連携で里づくり

綾町イオンの森誕生

世界基準で里づくり

多様な主体が連携した森づくり

農業生産管理整備

自然は生活文化の基盤

自然共生社会づくり

健康本物づくり推進

林業依存からの自立

手づくり工芸の価値

助け合い社会づくり

2

1

2

2

1

里山再生植樹

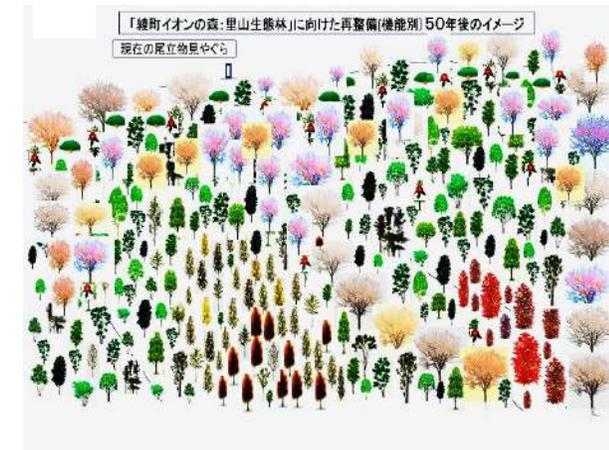
2013年スタート

「綾町イオンの森」里山の再生を目指して
綾町の資源を活かした未来に向けた里山づくり

2

里山生態林計画

2017年再スタート



自然との共生を目指す綾町は、町有林のスギを老朽化した綾中学校校舎の建て替えに活用し、その跡地を地域里山広葉樹林に復元

BR(ユネスコエコパーク)らしい地域特性を反映した植樹を**利活用的管理**で育樹し、**新たな価値の創造**に取り組む里山を目指す

巻頭言(抜粋)

綾町は「**照葉樹林都市 綾**」を基調として、**自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市**を理念とした町づくりを、これまで一貫して推進してまいりました。

基本的には「**町づくりは人づくり**」であり、立派な人材を育成することが町づくりの最大の目標であります。**教育環境の整備**を図り、最高の環境を整えることが行政の大きな役割であると認識しています。そのために、日本古来の**照葉樹林文化**を活かし**木造による校舎建設**が最善であると判断しました。(省略)

また、**ユネスコのエコパーク**に登録された綾町が取り組む「**自然との共生**」、「**持続可能な循環型地域社会**」を構築するためにも、木造校舎の建設は素晴らしい地域資源(森林資源)を経済林として利用し、需要拡大を図ることも大きな柱になると思います。(省略)

「低コスト木造校舎整備・宮崎モデル」(2016/04/04)より



綾町長 前田 稯

スキ伐採前の町有林
(現在はイオンの森)



錦原台地の馬事公苑からの遠望



建て替えられた綾中学校

里山再生が始まった頃の綾町イオンの森の様子
2013.11.23



平成17年 照葉樹林プロジェクト(100年間)発足

- ・ 5者による協定(10年毎に更新)を締結
- ・ 9,500ha(国・県・町有林)が対象エリア

2005~

宮崎県
(県有林700ha)
複層林化等

**九州
森林管理局**
(国有林8700ha)
照葉樹林の保護・
復元等

綾 町
(町有林100ha)
照葉樹を活用した
街づくり

【連携会議】

行動計画・中長期目標の策定
各主体での取組の企画・調整
年8回前後の調整会
議と2回の連携会議

**保護林設定や管
理でBR条件整う**

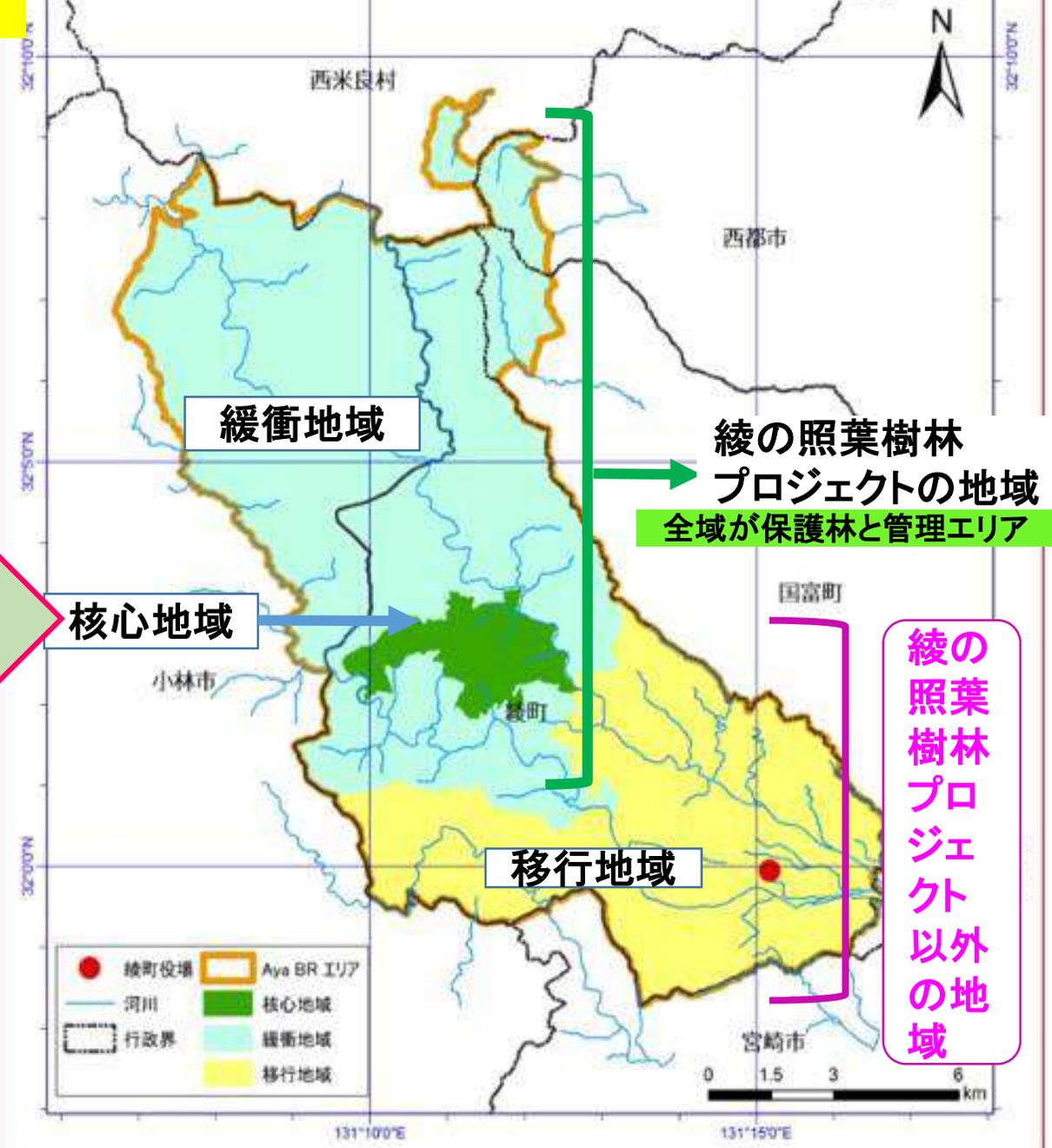
てるはの森の会
情報発信、市民・法人
サポーターの形成等

**日本
自然保護協会**
調査、プロジェクト
の枠組みづくり等

**地域住民
参画サ
ポート**

**民間企業
参画サ
ポート**

平成24年 綾BR(通称:綾ユネスコエコパーク)へと展開



綾BRの取組 (生物圏保存地域世界ネットワーク定款)

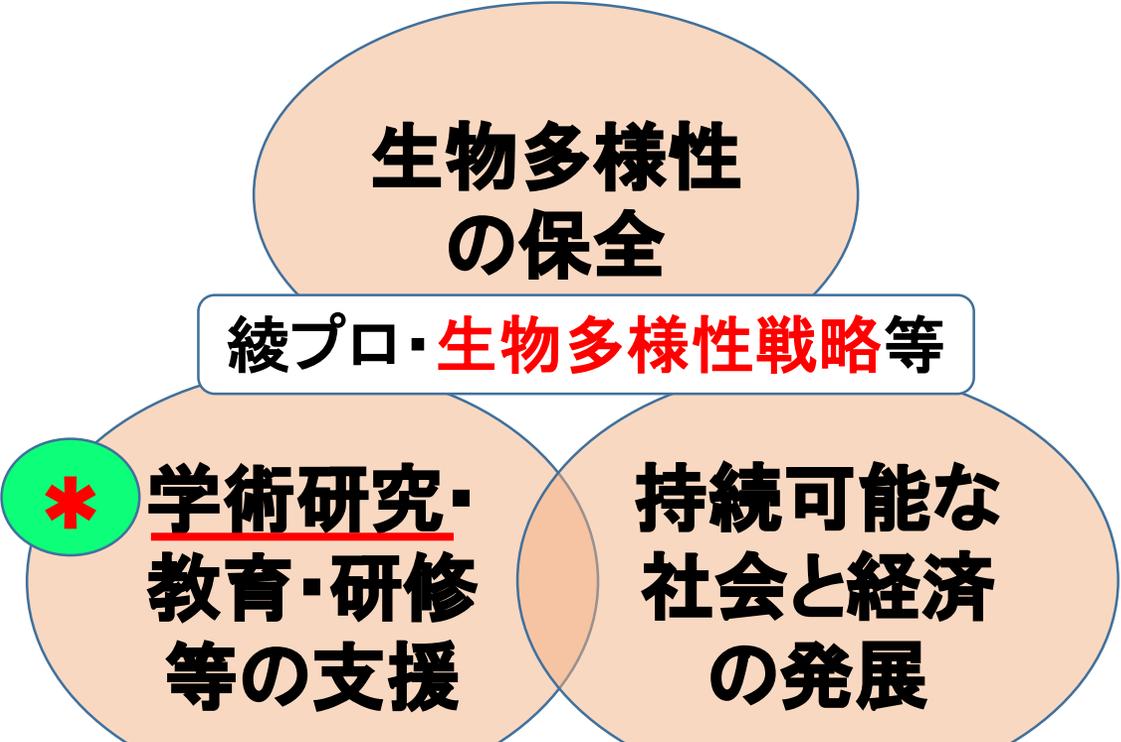
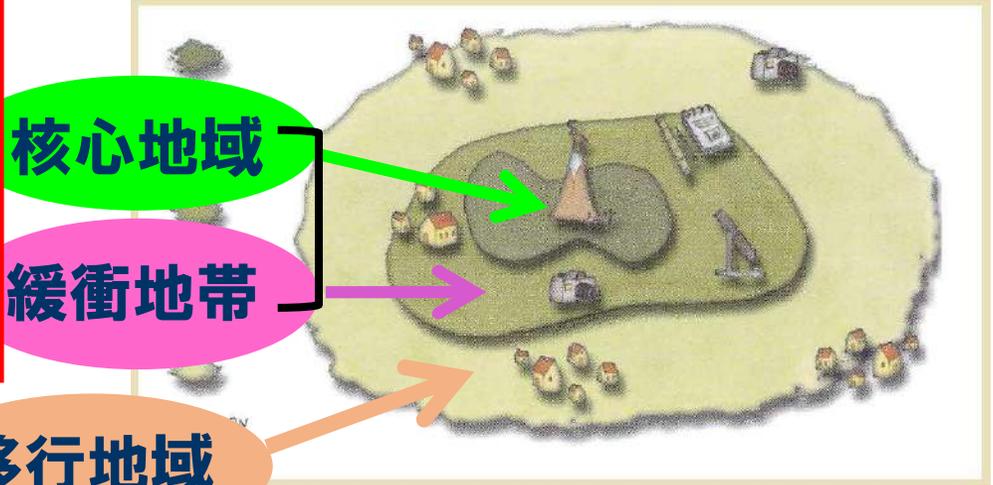
申請・運営に必要な条件

申請・運営に必要な条件

【定款が求める3つの土地利用区分(ゾーニング)】

【定款が求める3つの機能】

綾プロジェクト



土地利用区分
(3つのゾーニング)

- 嚴重に保護。モニタリングと基礎研究のみ可
- 教育・研修, レジャー, 実験的研究に利用可
- 居住区可。地域の社会発展・経済活動を担う
(1995年:セベリア戦略)

大学等との連携他 自然生態系農業他

BR(Biosphere Reserves)はユネスコのMAB (Man and the Biosphere)計画の中心事業。日本ではユネスコエコパークと呼称する

持続可能な資源の利活用と地域の経済発展

宮崎大学によるミツバチの研究
(光田靖先生の研究室)

研究の結果

天然林が多く、農地が多い程ミツバチが多い
(綾町の取り組みが**環境保全に寄与**)

科学的エビデンスでのブランド力！

大学連携協定

ミツバチがつなぐ新たな里山づくりに！

イオンの森にミツバチ生息環境の改善を
考え花の咲く自生樹種による植栽を！

照葉樹林都市、自然生態系農業の
町、社会の繋がり等が活かせる！

イオンの森を里山生態林機能検証の場
として**新たな価値の創造を目指す！**





年度 →

2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026

~ 2036

~ 2046

~ 2056

~ 2066

基盤再整備

潜在自然植生的機能森林

地域産苗木で補植多様化

公園・学習・里地的機能森林

低木で林間風景・蜜源・多様化

里地里山風景林的機能森林

ヤマザクラで混植多様化

木材・特用林産物的機能森林

クスギ等で混植多様化

暖地性落葉広葉樹林的機能森林

ムクロジ等で混植多様化

河畔林的機能森林

ケヤキ等で混植多様化

利 活 用 的 管 理

変化

移行地域の里山生態林づくりの広がり

移行地域の生態系や景観の多様化

効果

ニホンミツバチの増加

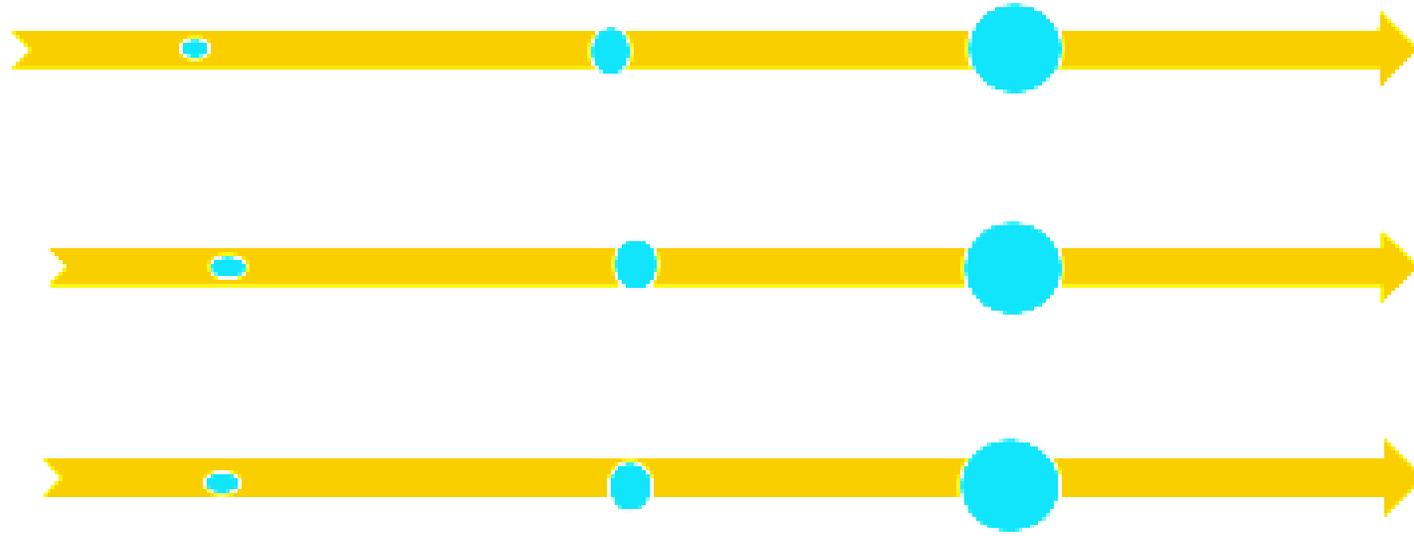
日向夏ミカンのBR的ブランド化

利用

観光やエコツーリズム的利活用

森林環境学習的利用

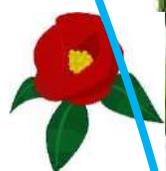
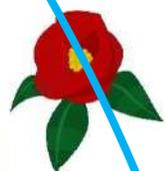
暮らしと共生する持続可能な「里山生態林」





平成29年度実施の公園・学習・里地的機能森林再整備の植樹イメージ

歩道の右側は左に同じ



ヤブツバキ
クロバイ
クロガネモチ
モチノキ
クロキ等
常緑亜高木
種が対象

ヤマザクラも混植可

歩道の左側の植栽配列

サザンカ
ヒサカキ
サカキ
トベラ
シャリンバイ
アセビ
ツゲモチ
アオキ
シイモチ等
常緑半低木
種が対象

森林と道路の間
クチナシ
チャノキ
ミヤマシキミ
シロバイ
ハイノキ
ハクサンボク
センリョウ
マンリョウ
コショウノキ
ミツマタ
コバノガマズ
マユミ
ニシキギ等
常緑・落葉低木
種が対象

歩道

近

奥





展望台



イオンの森の歩道沿いのミツバチの巣箱



展望台北側のミカン畑



若いミカン畑



日向夏ミカンの収穫



ヒュウガナツミカン農家の説明を受ける高校生



トレッキングに向け訓練する町民



ヤマモモの枝葉での草木染体験



専門家の指導を受けて、衛星やドローン、アイパットを利用したCO2蓄積量調査(綾中学生)



猟友会の皆さんによる猪の丸焼きや猪汁の振る舞い

BRでは世界基準を意識した管理・運営が求められる

故に、自然共生サイトとしての利活用も大事

<30by30ロードマップの目指すところ> G7サミット2021

出典:環境省
一部変更

- ◆ **2030年**までに陸と海の**30%**以上を保全（現在：陸域**20.5%**/海域**13.3%**）
- ◆ **ネイチャーポジティブ**（生物多様性の損失を止め人と自然との結びつきを取り戻す） 2020
- ◆ **地域の経済・社会・環境問題の同時解決**につながる**NbS**（Nature-based Solutions）
のための、**自然資本と生態系サービス**を確保する基盤的・統合的アプローチ 2021

「自然共生サイト」の対象

2022年4月公表



「自然共生サイト」の対象となるのは、以下の例示のような場所のうち、

- 生物多様性の価値を有し、
- 企業、団体・個人、自治体による様々な取組により、
- （本来目的に関わらず）生物多様性の保全が図られている

区域

例えば、

企業の森、ナショナルトラスト、バードサンクチュアリ、ビオトープ、
自然観察の森、里地里山、森林施業地、水源の森、社寺林、
文化的・歴史的な価値を有する地域、企業敷地内の緑地、屋敷林、
緑道、都市内の緑地、風致保全の樹林、都市内の公園、
ゴルフ場、スキー場、
研究機関の森林、環境教育に活用されている森林、
防災・減災目的の森林、遊水池、河川敷、
水源涵養や炭素固定・吸収目的の森林、
建物の屋上、
試験・訓練のための草原・

自然共生サイト認定⇒OECMとして国際データベースに登録

1 2

自然共生サイト

綾町イオンの森と割付地区の日向夏畑をまとめて申請



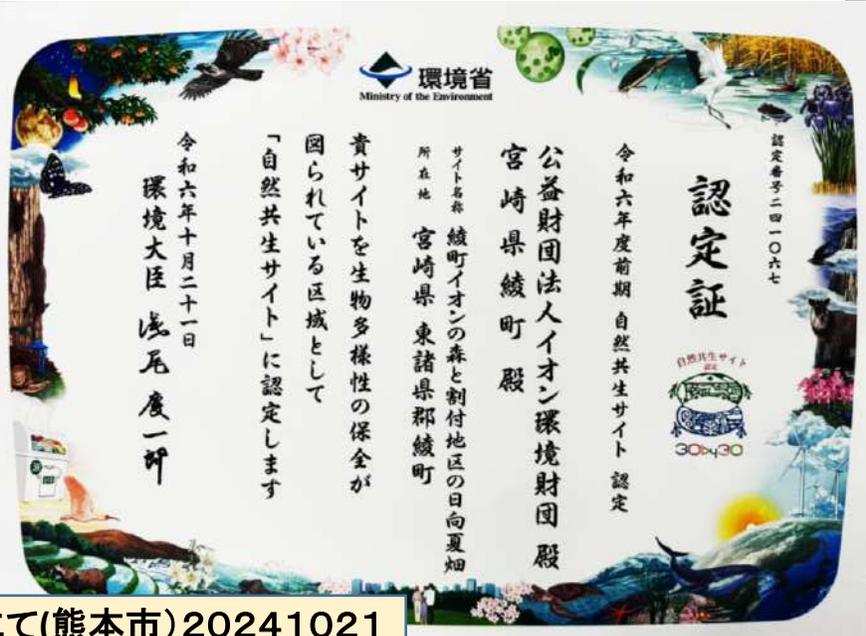
生物多様性、土壌づくり、環境に配慮した
有機草生栽培



割付地区日向夏栽培農家やJA綾町との協議
2024年2月27日



自然共生サイト授与式会場にて(熊本市)20241021



自然共生サイトの取り組みについての綾町とイオン環境財団との包括連携協定締結式
(2024年11月22日)

1

2

綾BRの里地・里山づくりが目指す基本姿勢

- 1 生物圏保存地域世界ネットワーク定款(MAB計画のBRの定款)に則した里地・里山づくり
- 2 地域の自然・風土・歴史・伝統的な生活文化・地域人材(地域資源)を活かした持続可能な里地・里山づくり
- 3 多様なステークホルダー参加・協力による関係人口が増える里地・里山づくり
- 4 官民連携の「綾の照葉樹林プロジェクト」で進める里地・里山づくり
- 5 国連開発計画の進めるSDGs(持続可能な開発目標:2015)を目指す普遍的な行動を意識した里地・里山づくり
- 6 IUCNと欧州委員会が定義したNbS(2020年:Nature-based Solutions:自然に基づく解決)を目指す行動や
30by30(2021年G7サミットで合意し、2022年目標に設定:2030年までに陸と海の30%の保全を目指す)、
ネイチャーポジティブ(2022年:昆明・モンリオール生物多様性世界枠組みCOP15)、
カーボンニュートラル(COP21年:気候変動枠組条約:パリ協定:2015)、グリーン・リカバリー(2020年?:欧州で提唱)、
OECM(Other effective area based Conservation Measure)(COP10年:日本が提唱、2018年に定義付)等を意識した里地・里山づくり。

【現在】自然共生サイトとして2023年「東洋紡「綾の森」」が登録。2024年「綾町イオンの森と割付地区の日向夏畑」が登録。

今後、イオン環境財団と綾町で自然共生サイトの利活用に向けての体制づくりについて検討中

- 7 将来展望として、綾BR全域を生態的機能の保護・保全の場や、文化的・精神的・社会経済的・その他新たな価値創造の場として、
土地利用区分の上に、科学的知見を取り込みながら、未来に繋がる持続可能な利活用が出来る里地・里地づくりを目指したい

2024年12月19日発売
綾町日向夏ミカンケチャップ



最近の成果

① ② 最後に 現在検討項目としてあげられている事業項目の例

①：生物・生態的多様性の取組等

*赤字は多少なりとも着手しているもの

②：地場産業的分野（有機農業関連：ミツバチ、果実、野菜、芋、コメ等）

③：地場産業的分野（林業関連：各種用材、菌床材、花木、木灰、ヤマノイモ等の特用林産物等）

④：地場産業的分野（工芸関連：木工、染織・釉薬・媒染剤利用等）

⑤：食や薬（山野草、民間薬草等）

⑥：再生エネルギー（薪炭、バイオマス素材等）

⑦：環境維持（カーボンオフセット、保全、土壌改善等）

⑧：教育（各種環境教育等）

⑨：快適環境（暮らし、各種ツーリズム、行楽、憩い等）

⑩：地域文化振興（伝統的暮らしや生活文化要素「有機農業、ジビエ、郷土料理、伝統芸能、行事、景観等」とのコラボ）

*相乗効果で醸し出される近未来の自立循環型里地・里山地域のウェルネス社会づくり

*綾町の里山づくりは、地域の自然生態系の中で築かれてきた様々な伝統的生活文化や歴史を掘り起こし、最新の知見で創造的に甦らせ持続的に未来社会に利活用できるかと考える。そのためには綾町の自然・歴史・文化・産業・人材等々の全ての資源を大事にすることが重要である。

まずは、新しい未来に向けた「綾町イオンの森自然共生サイト」での取組みを着実に推進していきたい。